

ヨバレからみる地域社会とは

藤田 晴香
HS27-0047F

1 はじめに

現代日本の地域社会は、近隣関係の希薄化、家族解体や地方の過疎化、少子高齢問題が深刻であるが、昔から受け継がれてきた文化や風習は今も存在する。

筆者の地元である石川県能登町宇出津地区で毎年7月に行われる「あばれ祭」は非常に勇壮な祭りとして知られている。近年は在住者の減少に伴ってキリコと呼ばれる山車の担ぎ手も減少し、それを補うために外部からの担ぎ手が増えている。そこで着目したのが祭りの日に行われる「ヨバレ」である。これは家に普段お世話になっている方や友人を招いて料理を振る舞う能登独自の招待風習である。現代においてもヨバレは変化していないのか、ヨバレというもてなしの文化から人間関係や帰属意識の変化を読み取ることができるのではないかと考え、卒業論文のテーマとした。

2 宇出津について

宇出津は石川県能登半島の北東部、能登町南部に位置する港町だ。医療等、周辺町村の生活の中心として機能してきたが、モータリゼーションの進行によってその地理的優位性を奪われた。現在の人口は1万7,328人と減少の一途をたどっており、2年後の2020年には65歳以上が人口の50.0%を占めると推測されている。

3 宇出津のあばれ祭

宇出津地区で約350年前に悪病が流行した際、八坂神社から牛頭天王（スサノオノミコト）を招いて盛大な祭礼を始めたところ、神霊と化した青蜂が病人を刺し、病を治した。喜んだ地元の人はこの青蜂を神様の使いと考え、キリコを

担いで八坂神社へ詣でたことがあばれ祭の起源とされ、勇ましいことを好む牛頭天王を喜ばせようとキリコや神輿が激しく暴れ回る。キリコとは、大きな灯籠状の担ぐ山車であり、神輿巡行の道の灯りとして氏子らが神にささげる御灯明の役割を担う。

「ヨバレ」は、昔は正月、婚礼、葬式、法事などの際にも行われていたようだが、婚礼や葬式などが家で行われることが減った現代ではヨバレ＝祭りだ。

4 インタビューからみるヨバレの現状

20年ほど前に石川県各地から宇出津に嫁いできた40代女性5人にインタビューをした。現在のヨバレという文化を担っていく中心世代である彼女らに宇出津のヨバレを初めて見た時の感想から約20年間での変化、世代交代をしていく未来までをそれぞれ聞いてみた。

宇出津に嫁いできた女性たちは、初めてヨバレを見たときはこの文化を理解し難かったかもしれない。祭りの2日間は休む暇がないほど忙しいが、来客に対するおもてなしの心を強く持っているように思えた。宇出津のヨバレの大きな特徴はやはり、誰でも気楽にヨバレられるところである。どの家庭も人数を把握しておらず、仕出し料理の注文は余っても足りなくならないようにと大雑把である。宇出津では短時間に何軒も回る人が多いため、挨拶、お酌、食器洗いと仕事量が多い。しかしながら、多くの人がヨバレに来てくれることが自慢であり、一種のステータスになっていると言える。世代交代のタイミングで2日間やっていたヨバレを1日にしたという家庭もあったが、どの家庭も来客数はほとんど変わっていない。祖父母世代の来客が

減少すれば、子ども世代の来客が増えるといったように継承されている。また、能登の祭りの先陣を切る祭りであるため、来てもらったからには行く、毎年必ず行くといったような、他地区の祭との行き来を大切にしていると感じた。手土産の数も昔と変わらないという家庭が多かった。いくら無礼講、いきなり来る人が多いといえど、毎年行き来のある人には来させてもらう、お邪魔させてもらうという意識に変わりはないのだ。インタビューした5人の女性たちは、社会人、大学生、高校生の子どもがおり、世代交代も近づいてきている。子どもたちが将来、宇出津で暮らすかどうかは未定であっても、祭りのときにはともにヨバレをし、この文化を繋いでほしいと思っている人ばかりであり、それはゼミ論文でインタビューした4人も同意見だ。

5 なぜ希薄化が進んでいないのか

インタビューから宇出津のヨバレにおいて人間関係の希薄化が見られなかった理由として、大きく2つ挙げる。1つ目は、家族の在り方が重要であり、核家族化していない家族が希薄化を食い止める要因になっているということだ。インタビューを通じて感じたことは、世代交代が自然な流れで起こっている。

2つ目は、やはり祭りに対する能登の人々の熱い想いである。能登の人々は数多くあるキリコ祭りの中でも、自分の住んでいる地域の祭りが一番だという誇りを持っている。そんな熱量のある祭りと同じくらいヨバレも大切にしているのだ。親世代の人々はみな自分の家のヨバレを受け継いでほしいと思っている。子どもは離れて暮らしていたとしても、自然とその想いを感じながら毎年祭りをしているからこそヨバレにおいて人間関係の希薄化は見られないのだ。

日本の社会・文化の特色は、各地域によって大きな異なりを見せ、その地域多様性は、「地縁」と「地域力」によって生まれると熊谷文枝は述べる(熊谷 2011: 1)。熊谷は、少子高齢社会では、もはや血縁のきずなを追求することは難し

く、血縁に代わり居住地域に基づく地域のつながりを重視する地縁に生活の基盤を求めることがより現実的であり、地域住民の生活を豊かなものにするという。(熊谷 2011: 20)。

「まちづくりとは『地域力を高める運動』として包括的にとらえるべきだ」と宮西悠司は指摘する(熊谷 2011: 27)。彼によって提唱された「地域力」には3つの要素があり、第1に「地域資源の蓄積力」、第2に「地域の自治力」、第3に、「地域への関心力」だ。これらが相まって地域構成員の主体的なかかわりと連帯・組織が生まれ、その結果地域住民の地縁が地域のきずな創造へと凝縮されることになるという(熊谷 2011: 27)。

地域力は地域社会のマイナス要素となる部分さえも潜在力ととらえ、地縁と関連して各地域の特性を作り出している。半島の先端に位置し、交通の便が良くないことはマイナスの側面といえるが、だからこそ豊富な海の幸での豪華なもてなしや、遠いところまで足を運んでくれたのだから楽しく過ごしてもらいたいという住民の温かい人柄が、人情あふれる場であるヨバレに表れていると感じる。

熊谷は「今ここで地縁に基づく近所付き合いを見直すことは、新たな日本の復興に深いかかわりを持ち、地縁と地域力に基づく地域のきずな創造こそが、日本の少子高齢社会の解決策である(熊谷 2011: 27)」と提示しており、これに共感する。ヨバレは地域の人たちとの繋がりや絆を再確認できる場であり、祭りを通して自然と結束力も高まる。その点で能登はまだまだ地域の可能性に満ち溢れている。

6 おわりに

インタビュー前、ヨバレは縮小化していると思っていた。インタビューをした女性たち皆が同居を選択したからこそその結果とも言えるかもしれないが、私はとても嬉しく思った。卒業論文執筆にあたって今回新たにインタビューした5人は、ちょうどヨバレの存続にかかわる分岐

点となる世代だと考える。彼女らの子ども世代が同居を選ぶか否かによって、ヨバレの在り方は大きく変化するであろう。

祭り前になると町全体が活気にあふれ、準備をする。当日はどこか誰だか分からない人にも料理をふるまい、お酌をする。汗だく、雨に打たれ全身びしょ濡れの人が座布団を汚すこともある。そんなこともお構いなしに皆がヨバレを楽しんでいる。ヨバレを全く知らない状態でこの文化をすぐに理解することは非常に難しいが、宇出津以外から嫁いで来た女性たちがこの文化を理解し、もてなす側の役割を果たしているからこそ、宇出津のヨバレはたくさんの方が顔を合わせ、1年に1度、祭りでしか会うことのない人とでも絆が生まれ、ずっと繋がっていく。

地元を離れている若者も、あばれ祭と同じくヨバレもとても大切にしている。離れているからこそ感じる能登の人の温かさは私自身も強く感じている。これを存続させることが能登、宇出津に生まれた私たちの使命であり、これからも誇りをもって受け継いでいきたい文化である。

文献リスト

石黒格・李永俊・杉浦裕晃・山口恵子, 2012, 『「東京」に出る若者たち』 ミネルヴァ書房。

数馬公, 2002, 『能登半島・宇出津のあばれ祭問答』, 能登印刷株式会社。

熊谷文枝, 2011, 『日本の地縁と地域力—遠隔ネットワークによるきずな創造のすすめ—』, ミネルヴァ書房。

実業之日本社(古川猛) 2015, 『意外と知らない石川県の歴史を読み解く! 石川「地理・地名・地図」の謎』, 実業之日本社。

渋谷利雄・藤平朝雄, 1999, 『能登のキリコ祭り』, せいしん社。

菅田正昭, 2007, 『日本の祭り 知れば知るほど』, 実業之日本社。

田中重好, 2007, 『共同性の地域社会学—祭り・

雪処理・交通・災害—』, ハーベスト社。
目黒依子, 1987, 『個人化する家族』, 勁草書房。
森田玲, 2015, 『日本の祭と神賑』, 創元社。
柳田國男, 1962, 『定本 柳田國男集第十巻』, 筑摩書房。

国立社会保障・人口問題研究所, 2018, 「石川県能登町の5歳年齢階級別人口の推移」, 国立社会保障・人口問題研究所ホームページ, (2018年9月16日取得, <http://www.ipss.go.jp/pp-shicyoson/j/shicyoson13/3kekka/Municipalities.asp>)

総務省統計局, 「平成27年国勢調査結果」, 2018, 総務省統計局ホームページ (2018年10月25日取得

<http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2015/kekka.html>)

能登町役場能都庁舎 住民課, 2018, 「能登町の人口」, 能登町ホームページ (2018年10月4日取得

http://www.town.noto.lg.jp/www/info/detail.jsp?common_id=8435)

能登町役場能都庁舎 ふるさと振興課, 2017, 「創業・継承支援事業補助金」, 能登町ホームページ (2018年10月13日取得

http://www.town.noto.lg.jp/www/service/detail.jsp?common_id=8965)

能登町役場能都庁舎 ふるさと振興課, 2018, 「H30あばれ祭運行表」, 能登町ホームページ (2018年11月8日取得,

http://www.town.noto.lg.jp/www/event/detail.jsp?common_id=2563)

能登町役場能都庁舎 ふるさと振興課, 2016, 「能登町雇用促進助成金」, 能登町ホームページ (2018年10月13日取得,

http://www.town.noto.lg.jp/www/service/detail.jsp?common_id=3660)

能登町役場能都庁舎 ふるさと振興課, 2017, 「能登町定住促進助成金」, 能登町ホームページ (2018年10月13日取得,

http://www.town.noto.lg.jp/www/service/detail.jsp?common_id=3670

能登町役場能都庁舎 ふるさと振興課地域戦略推進室 , 2018, 「ふるさと定住住宅助成金」, 能登町ホームページ (2018年10月13日取得 ,

http://www.town.noto.lg.jp/www/service/detail.jsp?common_id=3670)

能登町役場柳田庁舎 建設課, 2018, 「都市再生整備計画について」, 能登町ホームページ (2018年10月4日取得,

http://www.town.noto.lg.jp/www/info/detail.jsp?common_id=8825)

能登町役場柳田庁舎 農林水産課, 2017, 「能登町第1次産業I・Uターン支援助成金」, 能登町ホームページ (2018年10月13日取得

http://www.town.noto.lg.jp/www/service/detail.jsp?common_id=11515)